

○ 委員長報告

6月定例本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和7年6月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、今治市林野火災の二次災害防止と森林の復旧についてであります。

このことについて一部の委員から、6月補正予算案の内容と山林全体の復旧計画はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今回の補正予算案では、森林の焼失による保水力の低下が懸念されていることから、今後の降雨による土砂流出等の二次災害を防止するため、谷止工により土砂の流出を抑制するとともに、山腹緑化工による植生の回復と斜面の安定化を図ることとしている。

また、復旧については、先般開催された今治市林野火災復旧・復興計画策定検討会において、今治市から「憩いの場となる景観を楽しむことができる森林や防災機能を持つ森林の造成」などの方向性が示された。今後、地元の意見や課題を踏まえた計画が策定されると考えており、計画の内容を見極めた上で、市と連携しながら取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第2点は、農業支援サービス拡大促進事業についてであります。

このことについて一部の委員から、事業の狙いと具体的な支援内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県内の基幹的農業従事者数は、直近10年間で約3割減少し、昨年には65歳以上の割合も約8割となるなど、農業従事者の減少と高齢化が進行している。

このような状況においても、農業現場の生産力を維持し、農業の持続的な発展や食料の安定生産を確保していくため、施肥や収穫等の農作業をサポートする農業支援サービス事業体に対し、ドローンや直進アシストトラクタといった、広範囲で効率よく作業ができるスマート農業機械等の導入支援により体質強化を図り、サポート力を強化することで、担い手の減少や高齢化が進む地域農業の労働力の補完を目指していきたい旨の答弁がありました。

第3点は、6次産業化の推進についてであります。

このことについて一部の委員から、これまでの取組の総括や、今後の推進に向けた課題はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、6次産業化は、加工品開発による価値の創出等により、生産者の所得向上につながるため、県としても力を入れて取り組んでおり、生産者において付加価値向上への意識が高まってきた点が最大の効果であると考えている。

また、加工品開発や販路開拓等のノウハウを取り入れるため、生産者や2次・3次産業を含む幅広い関係者が共に参画し、市場に受け入れられる商品づくりに向けたブラッシュアップを行っている。

今後は、近年のライフスタイルや食生活の変化に伴い、健康や時短など多様化する消費者ニーズとの乖離が生じないように留意しつつ、生産者の所得向上につながる商品開発や販路拡大の取組を支援していきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・県野菜・花き振興計画
- ・水稻の高温対策
- ・有害鳥獣被害への対策

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。